

あかやま



第 **314** 号
学校だより375号

第70回全国高等学校 PTA連合会大会島根大会の参加報告

PTA副会長 村松 文治

令和元年度より、松江北高PTAの副会長を務めています村松文治と申します。コロナ禍にあり、教職員や生徒さんにおかれましては、学校や家庭において、感染拡大予防を心がけた日々をお過ごしのことと存じます。

さて、標題の会は、本来なら令和2年8月に開催の予定が、コロナ禍でオリンピック同様に1年延期され、本年8月25日島根県民会館にて、無事に開催されました。史上初めてのオンライン開催と会場開催のハイブリット開催となりました。全国の学校から2,363校（会員校の59.9%、令和3年9月3日現在）、県内から54名（動員を抑えたため）の参加がありました。

一昨年（令和元年）8月に、京都大会があり、翌年の開催の島根大会開催の下見のために出かけました。その京都大会は、1万人規模での開催で、あのような大規模な大会をこの島根県（松江会場のみではなく、県内で分散しての会場開催）で行うのか…、と不安に感じて帰ってきました。ところが、実際の開催状況は上述のとおりでした。当日は、会場開催の現場に立ち会い、受付をしました。京都大会の会場内外や受付の混雑ぶりを経験していましたが、それに比べて、とても穏やかでゆったりと、来賓などのお客様をお迎えすることができました。

大会当日の全体会は、松江商業高校吹奏楽部の素晴

らしい演奏と浜田商業高校郷土芸能部の迫力ある神楽、小泉凡氏（小泉八雲記念館化館長）による講演、佐野史郎氏（俳優）による朗読（映像による）、山本恭司氏（ミュージシャン）による生演奏と、とても“見ごたえ、聴きごたえ”のあるものばかりで、島根大会の肝を演出していただきました。まさに、大会のテーマである「ご縁づくり～新たな明日への礎のために～」にふさわしいものでした。なお、6つの分科会もありましたが、すべて事前収録によるものでした。

この大会の準備のため、数年前から島根大会実行委員会が立ち上がり、専従の事務局職員4名が配置され、開催日当日の前夜まで最終の確認、またそれまでも何度となく、実行委員会や各部会などで打ち合わせがされてきました。それは、会場開催1本で想定し準備してきたことが、コロナ禍で1年延期となり参加人数の縮小とハイブリット開催に伴う各種変更で、事務局はとても大変であったことと拝察いたします。また、事務局のみではなく、今回の大会にご支援をいただきました関係者の皆様や各事業者様のことも忘れてはなりません。

最後に、今回の大会のオンライン配信がありまして、今年12月末日まで全体会も分科会も視聴出来ますのでぜひご覧になって下さい。

PTA広報委員では保護者の皆様からの投稿を募集しています。

コロナ禍で広報員が集まることに不安が拭えない中、「オンラインで可能な委員活動」を模索し、その結果の一つとして「QRコードによるアンケート」の実施を決定いたしました。これまで『PTA会報』において保護者の方に原稿を依頼しておりましたが、QRコードのアンケートにより多くの保護者の皆様の意見や考えを発信できるのではないかと考えております。また空き時間に気楽に参加していただけることも大きなメリットです。今後PTA広報では、保護者の皆様からの受験に関する情報やわが子のためになる情報を投稿で集めて共有したいと考えております。ご協力よろしくお願いたします。



隠岐島前研修【1年生理数科】

島根県立松江北高等学校魅力化事業の一環として昨年度に引き続き、理数科1年生隠岐島前研修を計画しました。

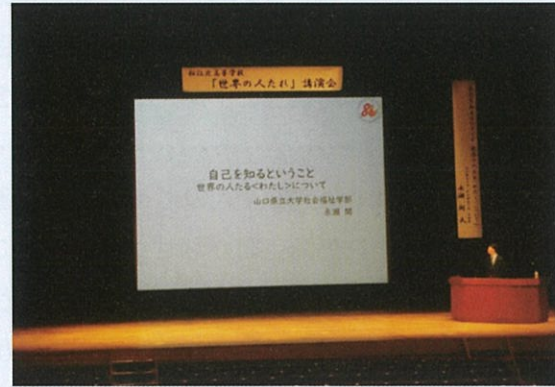
【1日目】……………
七類港をフェリーで出発し、海士町菱浦港到着後、6箇所の事業所で研修を行いました。海藻研究やCAS技術の活用などの科学技術を活用し豊かな地域資源を活かす事業の取組や、離島における医療に携わる方、歴史文化の継承に力を注いでいる方から仕事を教えていただきました。班別研修後は、隠岐島前高校の県外生を含む生徒との交流を通して、主体的に進路選択をすることの意義などに触れ、価値観の境界を拡げることができました。夕食後は、隠岐国学習センターで「夢ゼミ」を体験しました。センター長竹内俊博様に教えていただきながら、「選ぶ」「決める」というテーマで隠岐島前高校生とインタビュー形式で対話を深めました。

【2日目】……………
ホテル Ento内で4人のガイドの方に隠岐ジオパーク研修をしていただきました。日本海に浮かぶ離島、中之島海士町がなぜジオパークになったのか。地質学的事実はもちろん、後鳥羽上皇の遠流、北前船の寄港など自分たちが知識として知っている歴史が深くかかわっていること、さらにそこに人々が営んでいる生活や文化も欠かせない要素だということ学びました。ジオパーク研修のあとは、海士町で暮らす1ターンUターンの方を含む大人の方との座談会をしました。前日に「質問をする」ことを学んだ生徒たちは、大人の方に「質問」を積極的にすることができ、自分たちの生き方あり方について深く考える素晴らしい機会となりました。昼休みになっても、講師の方に熱心に質問したり、常松徹校長先生に人生相談をする生徒もいました。最後は、隠岐国学習センターで「振り返り」を行いました。センター長竹内俊博さまに教えていただきながら、今回の研修で自分が経験したこと、考えたことを「たまご」の形で描いて振り返りをしました。今回お世話になった関係各所の皆様、ご協力ありがとうございました。



「世界の人たれ」講演会【全年生】

2021年11月15日(月)に「世界の人たれ」講演会を実施しました。講師は本校卒業生である永瀬開先生に講演していただきました。演題は「自己を知ること：世界の人たるくわたし>について」で、世界の人たるとはということか。そもそも世界とは何か。そして、わたしとは何か。心理学的観点から世界の人たるくわたし>について考察することのできた時間となりました。人は、自分と他人との間の境界をはっきりしない乳児期から、両親や友人、教師など他者との関係の中で自己が育ち、高校生はアイデンティティの確立に悩む青年期にある。アイデンティティを確立するには、①過去現在未来の自分を時間軸で考えること、②身近な他者とやりとりをすること、③「役割実験(学業、部活、ボランティア、アルバイトなど)」をすることが大事である。身近な他者と対話をするすることで他者の考えを知り、自分の考えが明確になり、様々な活動を「全力で」することによって、自分の向き不向きや適所に気付いていくという話を伺いました。また、最後には、大学での4年間、何を学びどのように社会と関わっていかたいかを考えておくことよといいた進路選択への助言や今後どのようにくわたし>を形作っていけばよいのか、人生の指針になるお話を伺うことができました。



社会人講話【1年生 総合的な探究の時間】

2021年9月16日(木)に1年生を対象に社会人講話を行いました。様々な経験を積んでこられた社会人の方から、人生の転機や社会貢献に対する考えなどを聴き、自己の関心ごとを掘り起こし、学校内外での主体的な学びにつなげていく意欲を育む機会とすることを目的として、社会人講話を実施しました。今回は、8名の卒業生を招いて、ご講演に加え、文理選択を間近に控えた生徒たちと「対話」していただく時間を設けました。社会人の方との「対話」に、緊張しましたが、先輩方の高校時代のお話などを聴き、先輩方をより身近に感じ、進路選択を含む自己の在り方生き方を考える充実した時間となりました。講演を聴いた後には、クラスでの「対話」リフレクションで、自分が聞いたことを共有しました。クラスメートとも様々な「対話」を楽しみました。



災害避難所運営ゲーム(HUG)【1年生普通科 総合的な探究の時間】

～災害が起きたら高校生として何ができる?～

2021年11月18日(木)に災害避難所運営ゲーム(HUG)を行いました。このワークショップも3年目になります。昨年に引き続き、松江市防災安全部防災安全課 竹中敏博様、松江市男女共同参画課 田中いずみ様 他7名の方に講師として来校いただき、災害時に松江北高校が避難所となったことを想定し、「高校生だからこそできることは何か」をワークショップ(ゲーム)形式で学習しました。多様なニーズ、困難を抱える人々と行政からの物資が集まってくる避難所で、物干し場や授乳室がほしいといった要望や、炊き出しの依頼、コンビニから食料を提供したいという申し出、ポータブルトイレの設置場所の検討、受付に発熱者が来た場合どうするかなど、次々に起こる事態に対処しながら、どのように避難所を運営したら誰もがよりよく過ごせるのかを考えました。今年は、空き教室をスタジオにして、各教室へ放送システムで配信する形式で実施しました。松江北高校の生徒として、できることを仲間とともに真剣に考えた2時間でした。



校内ダンス発表会【2年生 体育】

2021年12月8日(木)に体育の授業で取り組んできたダンスの校内発表会を行いました。各Rのテーマは次のとおりです。

- 11R：人生 ●12R：海洋生物の救出 ●13R：神話～光と影～
- 14R：宗教 ●15R：コロナによって奪われた青春
- 16R：水の恵み ●17R：森林再生

審査の結果は1位13R、2位17R、3位11Rでした。1位の13Rは12月15日の県大会に出場しました。

